

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	3年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価 (2月22日)		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価 (3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①自己効力感を高め、他者を尊重する姿勢を育成する教育活動を行う。</p> <p>②生徒が自ら学び考える学習指導・支援に組織的に取り組み、生徒一人ひとりの進路等の目標を実現させる。</p>	<p>①授業、学校行事、部活動等で達成感を持たせる経験を積み重ね、生徒の活動意欲を引き出す。</p> <p>②授業以外でも学びを続けられる環境を整え、生徒に働きかける。</p>	<p>①目標達成に向けた段階的な課題設定と、それに対する形成的評価を行う。</p> <p>②ICTを活用し、生徒が自学できる環境を組織的につくる。</p>	<p>①授業改善の状況、生徒による授業評価やアンケート、振り返りの結果</p> <p>②授業時間外に活用できる学習手段の提供状況</p>	<p>①各教科が年間目標を作成し、2学期に各教科での研究授業、研究会を実施し、主としてICT機器の活用について情報の共有を図った。また、7月と12月に生徒による授業評価を実施し、その結果を踏まえて各教科で授業改善の課題を明確にした。</p> <p>②ICTを活用し、生徒が自学できる環境を組織的につくることのできた。</p>	<p>①2学期当初の1カ月が分散登校・オンライン授業となり、オンライン授業についての研究は実際にオンライン授業を進めながらの改善となった。今後は対面・オンラインの両方において、生徒の学習意欲を引き出し、学力を伸ばす授業を展開していく必要がある。</p> <p>②自宅でも全ての生徒がICTを活用できる環境の提供及び内容を充実させることが急務である。</p>	<p>①目標を実現させるため、具体的に育てたい生徒像を描いた上で、自校の現状を正しく認識し、PDCAサイクルにより実践されている。</p> <p>「生徒による授業評価」より各学年・各教科とも4点満点中3点を超える項目が多いのは日頃の教材研究や授業改善の成果だと思う。</p> <p>②オンライン授業は生徒アンケート結果を活かして、ICT活用の更なる向上に期待する。活用については、教科等の枠を超えてOJTを通して全教員のスキルアップを継続していただきたい。</p>	<p>①授業改善について、各教科単位でテーマを設定し取組んだので、教科の実情にあった授業改善を進められた。ICT活用については、分散登校やオンライン授業期間(1カ月)に生徒の反応を見ながら改善できた。しかし、生徒の意見として教科や担当者によってオンライン授業の内容や質が違っているとの指摘もあり、組織的な授業改善に更に取組む必要がある。</p> <p>②ICTを活用できる環境が整いつつある。新教育課程の実施に当たり、生徒のニーズや実態にどの程度対応しているか検証が必要である。</p>	<p>①ICT機器の活用については、職員の中でスキルに差がある。逗葉高校として必要なICTに関するスキルを明確にし、研修などを行うとともに、教科間での情報共有を進めることで、より効果的な授業改善に結び付くと考えられる。</p> <p>②令和4年度入学生から始まる一人一台端末による学習活動で環境面が大幅に改善されるため、活用させる側のスキルアップを図り、有効活用を実現させる。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>①他者尊重を基盤に、生徒の規範意識を醸成し、自律した行動を取れる力を育てる。</p> <p>②組織的な教育相談体制を充実させ、生徒一人ひとりが安心できる支援を行う。</p>	<p>①規範意識の必要性を生徒に理解させ、適正な行動を考えさせる。</p> <p>②支援的観点の理解を深め、個々の生徒の支援にいかす。</p>	<p>①組織的に他者尊重の大切さを伝え、生徒が振り返り考える機会をつくる。</p> <p>②生徒支援に係る研修を行い、生徒情報の共有を進める。</p>	<p>①学年や、授業・部活動等の担当者の自己評価、生徒の振り返りの結果</p> <p>②研修会の実施状況、学習時等での生徒支援状況</p>	<p>②他者への迷惑になる行為について年度対応し、生徒自ら考えを深めるよう指導した。</p> <p>②人権研修の内容を「自死」に絞り、外部講師を招き研修をした。</p> <p>・生徒状況調査やケース会議を通して、支援を必要とする生徒情報を共有した。特にコロナ禍における支援体制の一環として、分散登校期間に臨時的「保健だより」と、その後「スクールカウンセラー便り」を発行し、生徒・保護者へ呼びかけた。</p>	<p>①一部生徒ではあるが迷惑行為が無くなることは無かった。個々の生徒が抱えている背景に配慮しながら取組んでいく。</p> <p>②担任、学年、部活動、教科との連携を深めながら継続支援できる体制を維持する。</p> <p>・スクールカウンセラーの活用や研修会の実施、各種たよりの発行などを通して、個々の生徒の支援を更に充実させていく。</p>	<p>①色々なタイプの生徒や一人ひとり違った課題など、生徒支援は年々、その必要性が求められている。校内での連携、外部機関との連携を踏まえ、生徒一人ひとりが「大切にされている実感」が味わえるよう期待する。</p> <p>②コロナ禍の影響もあり、青少年の「自死」が深刻な社会問題になっている。そのことに関する研修を行われたことに敬意を表したい。</p>	<p>①規範意識と他者尊重に基づく適正な行動について年間を通して問いかけを継続した。また、研究広報Gと共同して地域清掃ボランティアを企画し、内発的アプローチをした。今後も活動人数が増加するよう継続していく。</p> <p>②生徒状況調査やケース会議、コロナ禍における生徒の困り感をテーマとした研修会の実施、各種便りの発行などを行い、支援的観点の共通理解に努めた。</p> <p>・個々の生徒の支援を充実させるため、視点の共通認識を深めていく。</p>	<p>①学校全体の共通意識を固めつつ、外発的指導のみならず内発的なアプローチについて考察し実践していく。</p> <p>②生徒一人ひとりの支援を充実させるために、活発なスクールカウンセラーの活用を継続していく。生徒情報の共有を積極的に行い、研修会を継続して実施することで教育相談体制の更なる充実を図っていく。</p>

	視点	3年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価(2月22日)		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価(3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	○生徒が主体的に進路目標の設定をし、実現のための行動が継続できるように、指導・支援の体制をつくる。	○見通しをたてられる情報提供、組織的な個別支援により、生徒に目標実現への計画的行動を促す。	○担当グループ・学年を中心に、学校全体で生徒を支援する体制をとる。	○キャリア・ポートへの生徒の記載内容、進路個別支援の実施状況	○総合探究やLHRの時間だけでなく休業中や放課後の時間も利用して面接や小論文プレゼンテーションなど進路実現に向けての指導を行った。オンライン授業での学習の充実をめざすため、次年度からスタディサプリの導入を決めた。	○オンラインオープンキャンパスやオンライン面接の指導ができるような環境づくりが必要である。ICTの活用における環境を整備し、校内でもオンラインの面接の指導ができるように支援体制を整える。	○大学も企業もオンライン面接が多かったと聞いているので、その対応に苦慮されたことと思う。社会環境の変化に対応した支援体制の整備を進めていただきたい。 ○進学する生徒には、「行ける大学」を選ぶのではなく、「行きたい大学」に挑戦する指導を行ってほしい。	○進路実現に向けて、面接、小論文、プレゼンテーションの指導を全職員で協力して行なった。 ○オンライン授業での学習の充実を目指して今年度まで実施していた実力テストに代わり来年度よりスタディサプリの導入を決定した。 ○Web出願やオンライン面接など校内での環境整備が課題である。	○スタディサプリの活用や受験のオンライン化に対応できるよう校内の施設環境整備をすすめるとともに、職員の研修機会を設定する。
4	地域等との協働	①幅広い地域資源を活用した教育活動を行い、他者を尊重する態度や規範意識、豊かな人間性を育成する。 ②地域貢献活動やボランティア活動に取り組む意欲や行動力を育成する。	①地域資源の活用範囲を広げる。 ②通常の教育活動が難しい中、可能な地域貢献活動やボランティア活動を行う。	①再編・統合相手校の活動を引継ぐ。 ②安全に行える活動・方法を吟味し、生徒に働きかける。	①活動の見学状況、担当者間の調整状況 ②実施できた活動と工夫の状況	①地域人材を活用してのワークショップを1学年2学期「総合的な探究の時間」に実施した。一部のワークショップは3月に「逗子トモイクフェスティバル」に参加予定である。 ②地域貢献活動についてはコロナ禍により見合せている。Google クラウドに新たにボランティアクラスを開設し情報提供をおこなった。また、2学期に地域清掃ボランティアを実施した。	①ワークショップは逗子高校の取組を引き継ぐものであり、今年度の実施状況を踏まえて今後さらに改善していく必要がある。 ②生徒の安全を確保したうえで地域貢献活動について検討、実施できるようにする。また、ボランティアクラスへの登録者を増やしていくための検討が必要である。更に、地域連携の視点を持ち、地域と関わりながらボランティア活動をすすめられる体制を整備したい。	①コロナ禍の影響により、活動が制約される中、地域清掃ボランティアや地域人材を活用してのワークショップを開催するなどの取組は評価に値する。 ②可能であれば、地域防災について高校生のお借りたい。 ・小学生が困っている時に手を差し伸べる等、大掛かりなものでなくても、個々が出来ることを広げて欲しい。 ・初任者研修の中学校訪問を発展させて、「中高連携」に繋げていけたらよい。	①地域人材を活用してのワークショップは初めての取組であったが、コーディネーターや講師陣の協力により無事に終える事が出来た。これを機に「逗子トモイクフェスティバル」や地域のイベントに参加する生徒を増やす事が出来た。 ②地域貢献活動は、コロナ禍において、十分な活動はできなかったが、ボランティアに興味をもつ生徒が増えたため、4月からは「SDGs」を中心とした地域の活動に積極的に関わる予定である。今後はこの活動をどのように継続し、参加者を増やしていくかが課題である。	①ワークショップについては44期生から45期生にスムーズに引き継ぐために、学年や担当者の情報共有が必要であり、今年度の反省を新年度にしっかりと生かし、さらに充実させる。 ②地域貢献活動、ボランティアについては、まだまだ参加者が少ないので、現在の参加者を核に参加者数を増やせるように、こまめな情報提供などにより生徒への働きかけをすすめていく。
5	学校管理 学校運営	①新校開校に向けた準備を進め、地域や中学生に支持される新校として開校する。 ②在校生・保護者を第一に考え、安心安全な学校づくりを一層充実させる。 ③職員が心身ともに充実して生徒と向き合えるように、働き方改革を推進する。	②生徒・保護者への丁寧な対応、事故防止の徹底、適切な情報提供により、安心安全な学校づくりをする。 ③職員の長時間勤務の是正に取り組む。	②支援的視点を持った対応、業務手順の整備と順守、わかりやすい情報提供を行う。 ③会議時間を減らし、グループウェア等による情報共有と課題調整を行う。	②生徒・保護者アンケート結果、逗葉ハンドブックの整備状況、逗葉メール・学校ホームページ等の情報発信の頻度 ③勤務時間内に会議が終了した割合、グループウェアの活用状況	①新校施設設備WGにて、教場等の配置計画および物品等の廃棄計画を実行した。また教場の環境(ICT活用)を充実させるための計画を始動させた。 ②ホームページや逗葉メールを活用し丁寧かつ正しい情報提供を心掛けた。 ③オンライン研修や在宅勤務を活用することで一定の推進を図ることが出来た。	①統合による普通科教育の展開に必要な施設・設備の整備が必要である。また地域との連携やコミュニティ・スクールの活性化を図るための利活用しやすい配置が必要である。 ②ホームページについては、コロナ禍を踏まえ積極的に教育活動の様子を発信していく。 ③更なる推進を図るためにグループウェアの活用方法の幅を広げていく必要がある。	①新校開校に向けて施設面でも魅力ある学校にしていきたい。 ③働き方改革が求められる中で、新校開校に向けた準備に取り組むことは大変なことと思う。職員の皆様が心身ともに健全で充実して取り組める環境が整うことを願う。	①新校施設設備WGにて、教場等の配置計画および物品等の廃棄計画を実行した。新校を迎えるにあたり、廃棄計画と搬入計画を計画的に進めていく必要がある。 ②ホームページ等を通じて、生徒への情報発信ができた。 ③校内のリモート環境の充実に伴い、オンライン会議等を活用し、長時間勤務の是正に取り組む。	①計画的な廃棄計画を示し、職員全体で取組めるよう進めていく。 ②逗葉高校として、最終年度の教育活動の様子と新校に向けた情報発信を積極的に行っていく。 ・校内リモート環境の充実に取り組み、円滑な利活用が出来るようにする。また、リモート環境に適應できるように職員の研修も必要である。

